

# 要 約

報告番号	① 乙 第	号	氏 名	多 田 光 宏
主 論 文 題 名				
Fear Conditioning Induced by Interpersonal Conflicts in Healthy Individuals (健全者における対人葛藤による恐怖条件付け)				
(内容の要旨)				
<p>精神生理学的指標は様々な精神疾患やパーソナリティ類型の病態生理を検証するのに用いられてきた。また、これらの精神疾患の生物学的基盤を解明、理解するために恐怖条件付けモデルが実験系として幅広く用いられてきた。しかしながら、従来の条件付けモデルでは、警告音や電気ショックなどの単純な嫌悪刺激を使用しており、精神疾患で焦点となる社会的ストレスを描出するには単純に過ぎる。そこで私は精神疾患で焦点となる社会的ストレス、特に対人葛藤を惹起する刺激を作成し、条件付けモデルを構築することで、精神疾患やパーソナリティ類型を検証し得る新たな実験系をデザインし、実現性の検討を行った。29名の健全女性を本研究に組み入れ、警告音、不快画像、俳優の画像に不快な台詞音声を組み合わせた「対人葛藤刺激」の3種類の刺激による条件付けを実施した。対人葛藤刺激は、事前にレーティングされ群間で価を調整された2種類の台詞、すなわち相手を称賛するような陽性台詞と、相手を非難、貶めるような陰性台詞を録音した音声を作成し、また事前に好感度を評価され、価において差を認めない3人の俳優の顔写真を用いて作成された。警告音条件においては、条件刺激 (CS) を色、無条件刺激 (US) を警告音、不快画像条件では、CS を色、US を不快画像、そして対人葛藤条件においては、CS を俳優の顔写真、US を前述の台詞音声として用いられた。いずれの条件も、3種類の条件刺激を用い、条件刺激呈示を行う馴化、特定の条件刺激のみに無条件刺激が付随、対呈示を行う条件付け、条件刺激呈示のみを行う消去の各相からなる。条件付け反応は自律神経系の活動評価指標となるskin conductance response (SCR) として計測、不安や緊張に伴う生理学的変化を定量化し評価を行った。Zanarini Rating Scale for Borderline Personality Disorder (ZAN-BPD) および、Revised NEO Personality Inventory により評価された人格特性とSCRの相関につき統計的解析を行った。結果としては、3種類いずれの刺激においても被験者において条件付けならびに消去学習の成立を確認、また明らかな有害事象を認めなかった。またZAN-BPDのスコアが高い者、すなわち情動不安定や、対人行動の不安定性を示す者ほど、対人葛藤条件でのみ高いSCRを有意に示した。本研究の限界としては、対象が女性に限られている点、対人葛藤刺激として静止画像と音声を用いている点、脳機能を評価し得るfMRIやevent-related potentialなどを施行していない点などが挙げられる。本研究の結果から、対人葛藤刺激を用いた条件付け実験系の成立、実現性が示された。また対人葛藤刺激による条件付け及び消去学習において情緒不安定性パーソナリティ傾向との相関が示唆された。</p> <p>本実験系は、対人ストレス脆弱性を有する精神疾患、パーソナリティ障害患者の高次の恐怖学習の異常あるいは特異性を検出する可能性を示唆しており、臨床的に意義深いと考える。</p>				